

(出水市上大川内池之段)

位置と環境

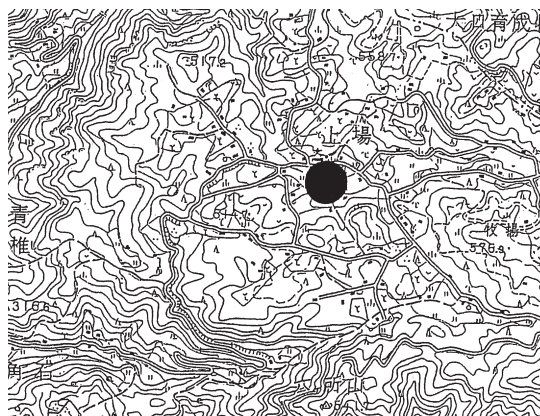
遺跡は、標高約450mの通称上場高原と呼称される安山岩台地の丘陵先端部に位置する。昭和40年池水寛治により発見され、翌年3月、第1次調査以来5次にわたって発掘調査が行われた。

遺構と遺物

細石器と爪形文土器の供伴、石器製作技法、我が国最初の旧石器時代竪穴住居跡が発見されている。地層は6層に大別されている。

第2層（黄褐色ローム）上部は押型文、石鏃が下部からは細石刃核・細石刃とともに爪形文土器が出土した。第3層（粘質の強い黒褐色土）上部には細石刃核・細石刃・爪形文土器が出土し、下部には細石器とともに折断剥片が出土するが土器は共伴しない。第4層（黄褐色粘質ローム）は、台形石器・折断剥片・ナイフ形石器・搔器・削器・彫器が出土。第5層（黄橙色パミス）は、始良カルデラ噴出の火山灰で上場遺跡では、木炭の放射性炭素による年代測定で、約22,800年という結果がでている。第6層（茶褐色粘質土）上部には、ナイフ形石器・台形石器・折断剥片・搔器・削器・粗製尖頭器が、下部からは折断剥片・片刃石器・両刃石器・礫器などが出土し、安山岩岩盤になる。

第4層上部で、竪穴住居跡が2軒検出された。1号住居は、ほぼ円形に近い直径3.5×3.7m、深さ70cmほどの竪穴住居跡。2号住居は7.3m×3.7mの長



第1図 上場遺跡の位置

円形状と報告されている。しかし、竪穴住居跡と認定するには疑問がなげかけられている。

特徴

AT 火山灰下位の岩盤直上から縄文時代草創期まで6枚の文化層が層序にそって出土し、九州の旧石器文化の標識遺跡となっている。また、日本最初の旧石器時代住居跡を検出するなど貴重な遺跡である。

資料の所在

出土遺物は、出水市教育委員会に保管し、一部出水市歴史民俗資料館に展示されている。

参考文献

池水寛治1974「鹿児島県上場遺跡発見の住居跡」『鹿児島考古』9

稲田孝司2003「日本における旧石器時代住居遺構の批判的検討」『考古学研究』第50巻第30号

(牛ノ瀨修)



写真1 上場遺跡遠景



写真2 調査風景

